

地球のワクワク！発見しよう

こどもエコクラブ

私が主役！なかまと一緒に未来をつくる

2015 年度 事業実施報告書



公益財団法人日本環境協会
こどもエコクラブ全国事務局

2015 年 9 月、国連は持続可能な開発目標(SDGs)を採択。2016 年 3 月、国内では持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム実施計画(ESD 国内実施計画)が公表されました。地域の衰退と、環境保全の担い手の減少が続く我が国においても、地域と関わり、地域を学び、地域に愛着を持つとともに地域に貢献する人材育成がますます重要性を増しています。こどもエコクラブは、地方自治体、企業・民間団体が連携・協働し、それぞれがメリットを享受しつつ持続可能な地域づくりを担う人材育成を進めています。

2015 年度、こどもエコクラブは 20 周年を迎えました。2011 年度に環境省の後援、文部科学省の支援のもと、地方自治体、企業・民間団体の協働取組として再スタート。2015 年度は 51 の企業・民間団体が協賛、寄附およびプログラムの共同事業等として関わっていただきました。地域事務局として地域活動を支えていただく地方自治体は 487 を数えます。

幼児期の環境学習がライフスタイルの転換や自然を大切に思う心を醸成する上で重要であることから、幼稚園・保育園を中心にこどもエコクラブへの登録を促進した結果、前年度比 16,225 人増となる 122,129 人(うち幼児 25,641 人)、2,127 クラブが登録しました。

登録促進と併行し、活動の継続とステップアップ策を強化しています。協賛企業の協力を得て活動フォトコンテストを実施した他、こども環境相談室、環境カウンセラー等の協力により活動報告に対する助言・指導を継続したところ、1,185 件の活動報告がありました。

クラブが年間の活動をふりかえるとともに成果を伝える壁新聞・絵日記の作成を促進しました。地方自治体の協力による壁新聞・絵日記コンクールには、244 枚の壁新聞、350 枚の絵日記の応募がありました。2016 年 3 月、全国フェスティバルを開催し、都道府県の代表クラブの交流と学び合いの機会を設けるとともに、環境大臣賞、文部科学大臣賞他の表彰をしました。

地域におけるクラブ活動の活性化を図るため、様々な人や組織による連携・協働を推進しました。生物多様性と食・農を中心とした体験型の環境教育のプラットフォームである「いきものみつけファーム推進協議会」は既存の4カ所に加え、山梨県中央市に新設し、千葉県流山市において設置準備を開始しています。

東日本大震災被災地の植樹を行う「Project-D」は、宮城県及び福島県において約 1,000 本の苗木を植樹。静岡県、埼玉県、栃木県、千葉県のこどもエコクラブメンバーとサポーター、企業の職員、労組の組合員等が参加し、地域や立場を越えた連帯感の醸成を図りました。

こどもエコクラブ全国事務局は、将来を担う世代の育成のために多様な組織や人の参画と協力のもとにこどもエコクラブ事業を継続・発展させる取組を 2016 年度以降も推進して参ります。その一里塚として 2015 年度のこどもエコクラブ年次報告書を作成いたしました。



こどもエコクラブ全国事務局長
川村 研治

目次

◎ はじめに	2
◎ 事業の目的	4
◎ 事業概要	5
◎ クラブの活動内容	6
◎ 実施体制	7
◎ 事業報告	9
○ 子どもたちの環境活動・学習のきっかけ作り	9
(1) クラブ募集に関する広報	
(2) 活動普及に関する広報	
(3) 応援企業・団体の意見交換会の実施	
(4) クラブの登録・情報管理	
(5) 活動サポートツールの作成・配付、賠償責任保険の加入	
(6) エコまるグッズの販売	
○ 環境活動・学習の活性化促進	15
(1) ニュースレター「JEC プレス」の作成・配付	
(2) ウェブサイトでの情報提供	
(3) 「クラブ活動フォトコンテスト」による活動報告の促進	
(4) 子どもたちの活動に対するフィードバック	
(5) All Japan Youth Eco-club (こどもエコクラブ OB・OG 会)の活動	
(6) 企業・団体等との連携・協働	
(7) サポーター、コーディネーター向けメール配信	
○ 環境活動・学習の意欲の向上、ステップアップ	21
(1) 活動をまとめた壁新聞・絵日記の募集、顕彰	
(2) こどもエコクラブ全国フェスティバルの企画、実施	
(3) 地域交流会の企画、実施、サポート	
○ 被災地に緑と心の復興を！ Project-D	27
○ いきものみつけファーム	28
◎ 地域事務局の取組事例	29
◎ 協賛・協力いただいた企業・団体	34
◎ 登録データ	35
◎ 壁新聞・絵日記 受賞作品	39

●事業の目的

子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援する「こどもエコクラブ」は、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的とし、幼児(3歳)から高校生までの子どもたちを対象に、子どもたちの自主的な環境活動をサポートしています。

◎事業のねらい

1. 子どもたちの自主性を大切にし、子どもたちが持っている多様なポテンシャルを引き出しながら、環境を大切にする心と行動力を育むこと
2. 周囲の大人や地域の多様な主体が参加して、子どもたちをサポートしながら多彩な環境保全活動の環を広げ、地域の環境保全の力を高めていくこと

◎こどもエコクラブ憲章

1. 私たちは、生命を生み、育んでくれる『水と緑の惑星・地球』を愛し、未来に引き継ぎます。
2. 私たちは、自分たちの暮らしや身のまわりの環境に関心を持ち、地球とともに生きていくための努力を続けます。
3. 私たちは、世界中のなかまと、手をたずさえて、地球を守るために活動を続けます。
私たちは、夢を忘れずに、夢を追い続けます。



事業概要

◎子どもたちの環境活動・学習のきっかけを作ります

個人やグループが環境活動を行うきっかけとして、クラブを募集し、登録管理等を行います。

- ・こどもエコクラブの募集・広報（ポスター・パンフレットの配布）
- ・クラブの登録・情報管理
- ・活動サポートツールの作成・配布、広報ツール等の貸し出し

◎環境活動・学習の活性化を促します

活動に役立つ情報やプログラム等の提供、全国各地のクラブの活動を紹介し、活動の活性化を図ります。

- ・ニュースレター（JEC プレス）、環境活動プログラム、環境情報等の提供
- ・ウェブサイト・メールインフォメーションによる活動に役立つ情報の提供
- ・子どもたちの活動に対する有識者からのアドバイスのフィードバック
- ・企業との連携イベントやコンテストの実施

◎環境活動・学習の意欲の向上、ステップアップにつなげます

活動の振り返りやまとめる機会を提供し、クラブの交流・発表の場を設け、これまでの活動を称えることで、今後の意欲の継続・発展につなげます。

- ・日頃の活動を簡易に報告する場の提供
- ・年間の活動をまとめた壁新聞・絵日記の募集、審査
- ・活動発表・交流の機会の提供（全国フェスティバルおよび地域交流会の実施、自治体イベント等の案内）
- ・子どもたちへの顕彰（環境大臣賞・文部科学大臣賞・企業賞等の授与）

- ・子どもたちの活動内容やそのレベルに合わせたサポートにより、環境を大切に
する心を養うとともに、将来の地域の環境活動をリードする人材を育てます。
 - ・地域の大人たちが関わることで、地域に根差した環境活動への発展につなが
り、地域全体での環境保全を促進します。

● クラブの活動内容

子どもたちの興味・関心に基づき、地域の特性や環境を活かしながら多彩な活動を繰り広げています。

◎ 自然観察・保全活動

山・川・森で、地域の中の自然観察、生き物調査、下草刈り等、自然に親しみ・守る活動



◎ 3R・清掃活動

リサイクル工作、クリーン活動、環境に配慮したクッキング等、日々の暮らしの中でできるエコ活動



◎ 農業・栽培

田植え・野菜栽培等の農作業や、花壇作り・育苗等の栽培活動、食育に関する活動



◎ 交流・発表

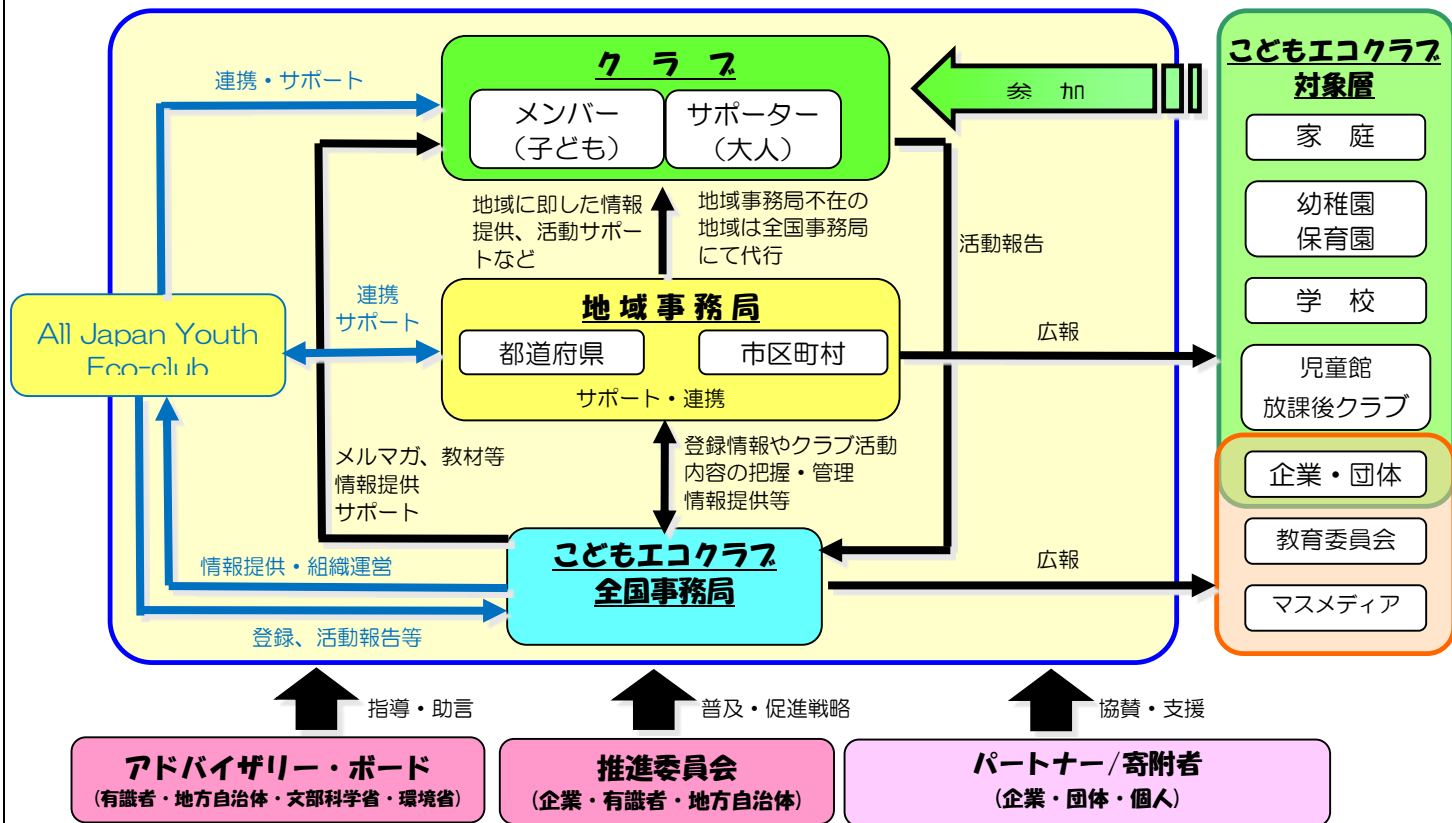
地域での交流会への参加、活動発表等



● 实施体制

本事業は、子どもたちの環境活動を応援する企業・団体からの支援を受け、全国の地方自治体と連携し、環境省及び文部科学省の担当部局の参画・指導・助言をいただきながら実施しています。

また、本事業は「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」第21条の6（協働取組に対する情報提供等）に基づく協働取組として、環境省が公表しています。



アドバイザー・ボード

環境教育に関する有識者及び NPO 関係者、環境省等関連行政機関、地方公共団体の環境教育担当部局担当者等によって構成され、本事業の運営に関する事項について助言やアドバイスを行う。

(委員長:公益社団法人こども環境学会 理事 小澤 紀美子氏)

推進委員会

こどもエコクラブ事業に関わるコーディネーター、協賛協力企業・団体、有識者等によって構成され、本事業の普及・促進戦略にかかる方策等の協議・検討を行う。

(委員長:株式会社三井住友銀行 取締役会長 北山 禎介氏)

地域事務局(地方自治体)

こどもエコクラブの子どもたちを応援する地方自治体(都道府県・市区町村)に、こどもエコクラブの窓口を設置していただいています。

※平成 27 年度 地域事務局数 47 都道府県、440 市区町村 地域事務局一覧 P36-38 参照

パートナー

こどもエコクラブで活動する子どもたちを応援する企業・団体・個人により、協賛・協力等さまざまなご支援をいただいております。

環境省より、環境教育等促進法に基づく協働取組として本事業を公表されました。

また、環境省・文部科学省より環境教育等支援団体の指定を受けました。

環境省

環境教育・環境学習・環境保全活動

文字サイズ

Googleカスタム検索

環境教育ホーム

ESD環境教育プログラム

ECO学習ライブラリー

+ESDプロジェクト

環境カウンセラー

各種認定・法律等

環境省 > 総合環境政策 > 環境教育・環境学習・環境保全活動 > 各種認定、登録、指定など > 環境教育等支援団体の指定 指定状況 > 資源と環境の教育の、普及促進事業

環境教育等支援団体の指定 指定状況

こどもエコクラブ

事業概要

事業名称

こどもエコクラブ

事業内容

子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の場を広げること、子どもたちが地域の中で主体的に行う継続的な環境保全活動や環境学習を支援する。

対象者の範囲

1. 幼児(3歳)から高校生
2. 大学生以上のこどもエコクラブサポーター

登録年度

H26年度

ESDって何だろう？
[PDF 2.5MB]

ESD
プロ
ESD
関連イ

協賛取組の名称	こどもエコクラブ
協賛取組の内容	地方公共団体や企業・団体等の様々な主体と連携し、協力し、環境保全活動及び環境学習を行う意思を有する子どもたちを支援するもので、子どもたちの活動に役立つ情報や体験活動の場の提供、子どもたち同士の交流促進等の支援を行う。
協賛取組の目的	21世紀を担う子どもたちが主体的に行う環境保全活動及び環境学習を支援することにより、人間と環境の関わりについて幅広い理解を深め、環境を大切に思う心を育成し、環境保全活動に参加する態度及び環境問題解決に資する能力を育むこと。海苔の大人や地域の多様な主体が参加して、子どもたちをサポートしながら多様な環境保全活動の場を広げ、地域の問題力を高めていくこと。
協賛取組の対象区域	全国
協賛取組の期間	永続的な取組
協賛取組に参加する者の氏名又は名称	・(全国事務局) 財団法人日本環境協会 ・(地方事務局) 47都道府県、372市区町村(別添1) ・(企業・団体) 13団体(別添2)

環境省

環境教育・環境学習・環境保全活動

文字サイズ

Googleカスタム検索

環境教育ホーム

ESD環境教育プログラム

ECO学習ライブラリー

+ESDプロジェクト

環境カウンセラー

環境省 > 総合環境政策 > 環境教育・環境学習・環境保全活動 > 各種認定、登録、指定など > 環境教育等支援団体の指定 指定状況

環境教育等支援団体の指定 指定状況

No	指定時期 (年月)	団体の名称	支援事業の名称	主催者
1	H26.3	特定非営利活動法人 地球環境保全協会	太陽光発電導入向け環境エシカルガイド教材及び環境教育普及啓発事業	環境省 文部科学省
2	H26.3	資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」	資源と環境の教育の、普及促進事業	環境省 文部科学省
3	H26.9	特定非営利活動法人 環境カウンセラー手帳普及協議会	地域密着した環境保全活動と環境教育支援事業	環境省 文部科学省
4	H26.9	公益財団法人日本環境協会	こどもエコクラブ	環境省 文部科学省
5	H27.2	特定非営利活動法人 自然体験学校	自然体験活動、及び環境教育プログラムの提供、および、指導者の育成、派遣事業	環境省 文部科学省

サイトマップ

サイトポリシー

プライバシーポリシー

お問い合わせ

このページのトップへ

出典:環境省ウェブサイト

● 事業報告

◎ 子どもたちの環境活動・学習のきっかけ作り

(1) クラブ募集に関する広報

本事業に賛同して地域事務局として登録した地方自治体および関係方面に、クラブの募集ポスター、パンフレットを希望数配布しました。また、希望する自治体には版下用データを送付し、地域事務局名を入れた独自のポスターを制作できるようサポートしました。なお、パンフレットについてはこどもエコクラブウェブサイト内でも掲載し、適宜ダウンロードすることができるようにしました。

また、JEC プレス 2015 年 7 月号(※P15 参照)のうち 1 頁を広告特集として「朝日らんたろう新聞」(18 万部)および「朝日小学生新聞」読者(全国約 11 万部)に差し込み、制作発行し、こどもエコクラブの広報を行うとともに、メンバーを募集しました。



2015 年度ポスター



2015 年度パンフレット

(2) 活動普及に関する広報

本事業の周知を図るために、広報用ツールの貸出、環境関連イベントへの出展や実施、Facebook 等を活用した広報活動を行いました。

◎ 地方自治体等に、広報ツール(前年度に子どもたちが年間の活動をまとめた壁新聞、エコまる旗、エコまる着ぐるみ、事業紹介パネル等)を貸出しました。

(旗: 21 ヶ所、パネル: 4 ヶ所、エコまる着ぐるみ: 4 ヶ所、壁新聞 17 ヶ所、絵日記 1 ヶ所)。



壁新聞

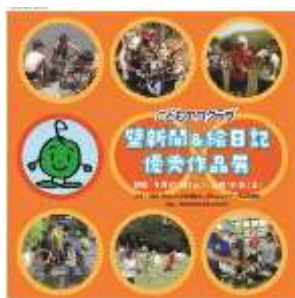


エコまる旗・着ぐるみ



事業紹介パネル

◎読売新聞社と連携して、壁新聞の優秀作品を掲示



読売新聞東京本社版夕刊
2015年4月17日掲載

◎国、自治体、企業等が実施する環境イベントの出展



エコライフ・フェア2015(東京都渋谷区)



エコプロダクツ 2015(東京都江東区)

【自治体主催】



SAITAMA 環境フェア &
こどもエコフェスティバル
(埼玉県)



いちかわ環境フェア 2015
(千葉県市川市)



子どもとためす環境まつり
(東京都中央区)



高知県壁新聞作り講習会
(高知県)

◎様々な媒体による事業広報



環境省ウェブサイト

グリーンクロスジャパン「みどりの小道 2015」



子ども環境学会学会誌
「子ども環境学研究」vol.11, No.1
広告掲載

新潟県
「新潟商工会議所会報」



児童健全育成推進財団
情報誌「じどうかん」冬号

環境goo エコまる

新学社 社会科 5 年生
副教材



千葉県柏市幼稚園協会
広報誌「かがやき」

全国信用組合中央協会
広報誌「しんくみ」



朝日新聞社 地球教室 2015
地球環境カードゲーム
「My Earth」



朝日新聞社 環境教材「地球教室2015」



朝日新聞社全国版夕刊
(2015年7月1日付)



朝日新聞社全国版夕刊
(2015年7月8日付)



朝日小学生新聞・らんたろう新聞
差し込み

◎FacebookやTwitterなどSNSを活用した事業概要や子どもたちの活動を紹介



Facebook「いいね！」600件(2016. 3. 31)



各地域担当別 Twitter
地域に合わせた情報を発信

(3) 応援企業・団体の意見交換会の実施

多くの方にこどもエコクラブについて賛同・支援いただけるよう、こどもエコクラブ応援企業・団体の意見交換会を実施しました。企業・団体が行っている本事業への支援内容について事例発表いただき、企業・団体同士の交流を推進するとともに、こどもエコクラブ事業について理解を深めていただきました。なお、環境省・文部科学省の環境教育に携わる方々にもご挨拶をいただきました。



日時：平成 27 年 11 月 9 日（月） 15:00～17:30
会場：合同庁舎 5 号館（環境省） 19 階 第 2・3 会議室
主催：環境省、公益財団法人日本環境協会
出席者：15 企業・団体 20 名、環境省 2 名、文部科学省 2 名、事務局 10 名

(4) クラブの登録・情報管理

環境活動を行う幼児（3 歳）から高校生の子どもと、子どもたちの活動を支援する大人（サポーター）で構成したクラブの登録を受け付け、一元的な情報管理を行いました。なお、ウェブサイトから登録や変更などの諸手続きを容易にしました。

※クラブの個人情報 は 弊協会 プライバシーポリシー にのっとり、適切に管理しています。

平成 27 年度の登録数は、クラブ数：2,127 クラブ、メンバー数：122,129 名、サポーター数：20,160 名で、これまでの延べ登録メンバー数は約 220 万人となりました。

※都道府県別登録数、学年内訳等は、P.35「登録データ」を参照。

(5) 活動サポートツールの作成・配付、賠償責任保険の加入

子どもたちの活動への意欲・継続意識の促進を目的として、日頃の活動を記録するメンバー手帳（60,000 部）を作成、希望するメンバーに配付しました。また、平成 27 年度は 20 周年を記念して、バッジを希望する登録メンバー、サポーターに無償で配布しました。



日々の活動を記録する「メンバー手帳」



2015 年度
20 周年記念
メンバーズバッジ

小学校入学前のメンバーを対象としたツール
「ぼくの/わたしのエコカード！」(5,000 部)を作
成、チャレンジしてほしいエコな行動をエコまるた
ちのイラストで紹介し、希望する幼稚園・保育園
のクラブに送りました。大人向けに事業趣旨や活
動時の支援内容等を記載した「応援マニュアル」
(5,000 部)を作成、登録クラブに配付しました。

また、登録時に、賠償責任保険に加入し、クラブの活
動のサポートを行いました。



未就学児向けツール「ぼくの/わたしの
エコカード！」



事業の趣旨・活動時
の支援内容を記載し
た「応援マニュアル」

(6)エコまるグッズの販売

子どもたちのメンバー意識の醸成と活動に対するモチベーション
向上を目的として、イメージキャラクター「エコまる」をデザインした
シャープペンシル等を希望するクラブに実費頒布しました。



エコまるシャープ
ペンシル



エコまるスタンプ



エコまるバッジ

◎ 環境活動・学習の活性化促進

(1) ニュースレター「JEC プレス」の作成・配付

全国で活躍する各クラブの活動紹介や食べ物とエコなどを掲載したニュースレター（タブロイド版、カラー4色、4ページ）「JEC プレス 2015 年 7 月号」（6 万部）を制作・発行し、希望するメンバー、サポーター、地域事務局に配付するとともに、ウェブサイトに掲載しました。



JEC プレス 2015 年 7 月号

(2) ウェブサイトでの情報提供

ウェブサイトにはクラブから届く活動報告を大きく表示し、こどもたちの活動の様子を随時紹介しています。ページ構成を整理し、各種情報にアクセスしやすくしました。



こどもエコクラブ <http://www.j-ecoclub.jp/>

各クラブから報告される活動レポート、コーディネーターやサポーターの生の声を掲載する「リアルヴォイス」、子どもたちが1年間の活動をまとめた壁新聞に対して環境分野の有識者によるアドバイスをする「壁新聞道場」等、子どもたちの生き生きとした様子や活動の様子、子どもたちにかかわる大人の悩みや抱負、環境関連イベントやプログラム情報など、活動の発展・充実につながる情報を随時掲載しました。

平成27年度に寄せられた活動レポート数は1,236件です。



クラブの活動レポート

(3)「クラブ活動フォトコンテスト」による活動報告の促進

活動レポートと一緒にクラブから寄せられる写真を活用したフォトコンテスト(協賛:ニコン)を3期に分けて実施・表彰して、活動報告の投稿を促すとともに、受賞作品を広報資料に掲載するなど写真を活用して元気に活動する子どもたちの様子をアピールしました。

また、3月末に実施した全国フェスティバルにおいて、1期～3期の全ての入賞作品を展示して、全国フェスティバルの全参加者による投票を行い、年間賞を決定・表彰を行いました。

○平成27年度 受賞作品



こどもエコクラブ賞



ニコン賞



全国フェスティバルで投票の様子

(4)子どもたちの活動に対するフィードバック

子どもたちの活動の発展、継続意欲の向上を目的として、フィードバックを行いました。

◎クラブの活動報告や年間の活動をまとめた壁新聞に対して、環境に知見のある有識者(環境カウンセラーや協会のこども環境相談室・相談員等)による活動の発展につながるコメントやアドバイスを送付しました。

<報告・コメント例>

○活動報告「冬の里山活動体験」

・2月21日(日)の里山活動は野鳥観察をしました。講師に河合嗣生先生をお迎えして、旧鹿背山分校からいつもの活動場所までの道で野鳥を観察しました。河合先生が野鳥の特徴を図解してくれたり、たくさんエピソードを交えて分かりやすく説明してくれ、10種類ほどの鳥を見つけることができました。うれしいことにオオタカも近くに姿を現してくれました。他にも蛇のシロマダラの死骸やキツネのものらしきフンにも遭遇しました。午後はロケットストーブでチョコフォンデュを楽しみました。バナナやイチゴ、バゲットに湯煎したチョコをつけて食べました。野外なのでチョコが垂れても平気。とても好評でした。

参加者のようす

・子どもたちは、観察できた鳥の名前(オオタカ、トビ、スズメ、ツグミ、ヒヨドリ、カワラヒラ、セグロセキレイ、メジロなど)を書き取り、熱心に先生のお話を聞いていました。



感想・気づいたこと・考えたこと

子どもたちからは、次のような感想が寄せられました。
・家の近くで見られる鳥がいたからびっくりした。
・自分の住んでいるところにはハト、カラスやスズメしかいないけれど、鹿背山にはいろいろな種類の鳥を見ることが出来た。
・鳥の習性を教えてもらえて良かった。

○コメント

【メンバーの皆さんへ】

木津川市こどもエコクラブ合同チームのみなさんへ
今回の里山野鳥観察では、とてもたくさん野鳥を観察できましたね。忘れないように描いておくのはとても良いことです。これからは活動の後はぜひ記録しておいてくださいね。
オオタカやキツネの生息が観察できるほど、鹿背山は自然豊かな山なのですね。とてもステキなところですね！鹿背山は山城跡もあるようですので、地域で大切にしたい場所です。みんなのエコ活動にも期待していますよ^^
屋外でのチョコフォンデュ、とてもおいしそうですね。地域の自然の豊かさや自然の中での楽しみ方をこれからもたくさん体験してほしいと思います。



師範から一言！

生き物観察の記事では、季節によって姿が変わる植物をくらべているのがわかりやすく良いと思います。とくにエノコログサは緑色から茶色になりますし、小さいころから目にしたり遊んだこともあり、よく知った植物ですね。また、「文化祭」の記事では卵のカラを使ったエコキャンドルがとてもおもしろいと思いました。見た目も可愛らしく、サイズも小ぶりで女性に人気がありそうです。実際どうでしたか？次回の新聞では皆さんの活動、作品に対するまわりの情報も教えてください！

とっておきのゴシドウ★

生き物調査を3日間したようですが、すべて同じ場所ですか？もしそうであれば、前の月(季節)と比べて観察場所の様子はどうでしたか？たとえば前回見つけた花がなかった、生き物が違っていた(バッタについては書いてくれていますね)、など教えてください。また、ソーラークッカーとはどういったものなのかも、説明があるとよいと思います。

◎子どもたちの活動を称える「アースレンジャー認定証※」を作成し、1年間に5回以上の活動を報告したメンバー(1,664名)に授与しました。

また、3年間継続活動をしているメンバー(265名)には銀バッジを、6年間継続活動をしているメンバー(68名)には、金バッジを授与しました。

※年間5回以上の活動報告を行い、申請があったメンバーに授与。



認定証/金・銀バッジ

(5) All Japan Youth Eco-club (こどもエコクラブ OB・OG 会)の活動

こどもエコクラブでの活動経験のある若者のネットワークを築き、環境活動・環境学習の充実・発展を目的に、こどもエコクラブのサポートおよびユースメンバー同士の交流、イベント等の企画を行うなど、様々な活動を進めています。

今年度は、ユース自身の企画により、ユースが自分のクラブの枠を越えて、他のクラブ取材して活動を紹介する冊子「ユースが行く！！」を制作し、配布しました。また、全国フェスティバルや地域交流会(P21 参照)においても、ファシリテートや進行を元気にサポートしてくれました。



冊子「ユースが行く！！ All Japan Youth Eco-club 2015」

<企画運営事例>

○開催日:平成 27 年 8 月 29 日(土) 10:30~16:00

○場 所:おおさか ATC グリーンエコプラザ(大阪府大阪市)

○主 催:おおさか ATC グリーンエコプラザ(大阪府大阪市)

○協 力:エコプラザこどもクラブ(大阪府大阪市)

公益財団法人日本環境協会、All Japan Youth Eco-club



(6)企業・団体等との連携・協働

企業・団体等が実施するこどもエコクラブへの支援や連携協力(イベントや教材の提供やコンテスト等)の情報をとりまとめました。ウェブサイトやメールを通してサポーターやコーディネーターに紹介し、クラブ活動の活性化を図りました。

■企業・団体等からの支援の募集・紹介、広報協力



オイスカ「子供の森」
子ども親善大使×こどもエコクラブ交流会
in 谷津干潟(千葉県習志野市)



ANA こどもエコクラブ限定！
ANA 機体工場見学(東京都大田区)



タカラトミー会社見学ツアー
「100 ねんあそぼ～おもちゃのエコを
体験しよう！」(東京都葛飾区)



佐川急便
「たき火をしよう！+ダッチオーブンで地産
地消」(東京都八王子市)



バンダイナムコ&逆川こどもエコクラブ
「めだかとグッピー探し&逆川生物調査」(茨城県水戸市)



おおさか ATC グリーンエコプラザ
「こどもエコクラブワークショップ」
(大阪府大阪市)



世界貿易センタービル
「こどもエコクラブ限定！Think Park Forest(大崎の森)見学&サッカースクール体験」
(東京都品川区)



■教材等の提供(例)



三菱 UFJ 環境財団
「植物図鑑等」



エコバンク Japan
「グリーンカーテン
(種の配布)」

■コンクール等の実施(例)



山田養蜂場
「ミツバチの一枚
画コンクール」



ブリヂストン
「こどもエコ絵画
コンクール」



ライオン
「雨活アイデア
コンテスト 2015」

■広報協力(例)



三井住友フィナンシャルグループ
「JUNIOR SAFE」

■寄附等の提供(例)



東京都民銀行
「ECODOMO」
定期預金



プロントコーポレーション
「プロント・ラブ・グリーン」
キャンペーン



嵯峨野
古本基金「こどもエコ
クラブ×きしゃぼん」

(7) サポーター、コーディネーター向けメール配信

全国事務局からのお知らせ、全国各地のイベント、子ども向け環境コンクール情報、環境活動に役立つ情報等を、適宜サポーターおよびコーディネーター宛にメールで配信しました。

(サポーター向けメール配信: 48 回(うち地域限定版: 21 回)、コーディネーター向けメール配信: 30 回)

また、事業を支援する企業・団体向けに、事業のトピックスやニュースをメールで配信しました。

(企業・団体向けメール配信: 7 回)

◎環境活動・学習の意欲の向上、ステップアップ

(1)活動をまとめた壁新聞・絵日記の募集、顕彰

子どもたちが1年間の活動で感じたことを振り返るとともに、子どもたちの活動を多くの方に知ってもらうツールとして活用し、子どもたちの自信や活動意欲の向上を図ることを目的に、全国のクラブに対しては活動をまとめた壁新聞を、個々のメンバーに対しては絵日記を募集しました。

また、子どもたちが作成した壁新聞・絵日記を「独創性」、「発展性」、「アピール力」、「地域への密着度」を選考基準として、環境教育にかかる有識者による「事前選考委員会」及び有識者、環境省担当官、企業担当者等からなる「選考委員会」にて審査を行いました。事前選考委員会では、全国フェスティバル(後述)に参加する各都道府県の代表クラブ及び幼児部門の優秀クラブを選定し、選考委員会では環境大臣賞、文部科学大臣賞、日本環境協会賞、協賛企業賞等を選定しました。

■壁新聞・絵日記募集概要

○募集期間:平成27年10月～平成28年1月8日(金)

○対象:全国のこどもエコクラブ

○仕様:壁新聞—模造紙大、縦横自由

絵日記—A3サイズ、縦

○その他:複数枚数の応募可能

■募集結果

○壁新聞 応募数:244枚

○絵日記 応募数:350枚

■審査結果

○受賞壁新聞・絵日記 P.39-42 参照



◆環境大臣賞(壁新聞)

(2)こどもエコクラブ全国フェスティバルの企画、実施

各地域で子どもたちが展開している活動を紹介して、環境保全活動の定着・拡大を促し、環境人材の育成を図ることを目的として、全国フェスティバルを企画・実施しました。活動をまとめた壁新聞で選ばれた都道府県代表クラブ、審査員推薦クラブ、絵日記で選ばれた受賞者が全国フェスティバルに参加し(旅費の一部を全国事務局にて負担)、子どもたちの活動発表・交流や環境に関する企業・団体展示コーナーの見学、環境大臣賞等の表彰等を行いました。

全国フェスティバルのメインプログラムでは、子どもたち自身の視点から「こどもエコクラブ大賞」を選ぶプログラムを行い、参加した子どもたちが日頃の活動を自分たちで発表しあうとともに全国各地のクラブ同士の交流を深めました。また、企業・団体によるブースを回り、企業・団体が行っている環境への取り組みを学びました。さまざまな刺激を受け今後の活動意欲が高まった子どもたちは、これからの活動の発展や充実を目指し、活動を継続していこうと皆で誓い合いました。

なお、実施に際しては、早稲田大学にご協力をいただき、環境に関心のある学生に子どもたちのサポートを担当してもらうなど、しっかりとした連携体制にて対応しました。

■こどもエコクラブ全国フェスティバル 2016

○開催日：平成 28 年 3 月 20 日(日)

○会 場：早稲田大学 西早稲田キャンパス理工学術院 63 号館(東京都新宿区大久保三丁目 4-1)

○主 催：公益財団法人日本環境協会(こどもエコクラブ全国事務局)

○後 援：環境省、文部科学省、厚生労働省、消費者庁
公益社団法人こども環境学会、全国小中学校環境教育研究会、
公益財団法人日本容器包装リサイクル協会、NHK

○出展団体・企業：株式会社イトーキ、株式会社エフピコ、王子ホールディングス株式会社、
トヨタ自動車株式会社、文化シヤッター株式会社、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会、
株式会社ミールケア、三井化学株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、
株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、ライオン株式会社、エコマーク事務局

○協 力：井筒まい泉株式会社、株式会社タカラトミー、東京都水道局、株式会社ニコン、
三菱電機株式会社、株式会社龍角散

○参加者：・都道府県代表クラブ：34 都道府県 349 名(子ども 205 名、大人 144 名)
・審査員推薦クラブ：19 名(子ども 10 名、大人 9 名)
・絵日記受賞メンバー：36 名(子ども 14 名、大人 22 名)
・一般参加クラブ：12 名(子ども 3 名、大人 9 名)
・こどもエコクラブ自治体担当者：15 名 ・企業・団体担当者：63 名
・早稲田大学学生環境 NPO 環境ロドリゲス他 関係者：64 名 計 558 名

○プログラム：

時 間	プログラム	展示物
9:15~10:00	◆集合、受付	
10:00~10:05	◆オープニングはじまりのあいさつ 司会：おうめこどもエコクラブ、大分県立大分東高等学校リボベジ研究会	・全国から届いた壁新聞と絵日記の展示
10:05~10:25	◆交流タイム(アイスブレイク) 手作りの名刺を準備して、全国のみんなと交流しよう！こどもエコクラブの OB・OG からなる All Japan Youth Eco-club が担当しました。	・活動フォトコンテスト受賞作品展示・年間賞投票
10:25~12:00	◆こどもエコクラブ大賞 予選発表 6 つのチームに分かれて、1 年間の活動をまとめた壁新聞・絵日記をもとに発表。各チーム内でチーム No.1 クラブを決定。 ◆絵日記部門受賞者：絵日記を書いた仲間同士で発表とワークショップ	・こどもエコクラブ応援企業・団体一覧
12:00~12:15	◆企業・団体の紹介 ・こどもエコクラブを応援している企業・団体を紹介 ・出展企業・団体のブース紹介	・All Japan Youth Eco-club 活動紹介
12:15~13:35	◆昼食 ◆企業団体の環境への取り組みを学ぼう こどもエコクラブを応援している企業・団体の環境に関する取組を各ブースにて紹介します。各ブースを回って、見た感想を記入！	・早稲田大学学生環境 NPO 環境ロドリゲス紹介
13:35~13:45	◆集合写真撮影	
14:00~15:00	◆こどもエコクラブ大賞 本選 予選でチーム No.1 になった 6 つのクラブがステージで活動発表。参加者全員が一番良かったクラブに一人一票投票し、「こどもエコクラブ大賞」を決定	
15:10~15:15	◆来賓挨拶 環境省 総合環境政策局長 三好 信俊氏	
15:15~15:35	◆表彰式 (壁新聞：環境大臣賞・特別賞、絵日記：優秀賞の授与)	
15:35~15:45	◆先輩からのメッセージ All Japan Youth Eco-club から子どもたちメッセージを贈りました。	・東京都市大学 伊坪研究室紹介
15:45~16:00	◆クロージング こどもエコクラブ大賞の発表・表彰/一日のふりかえり/こどもエコクラブ宣言/閉会挨拶	

《全国フェスティバルの様子》



《参加した子どもたちからの活動レポート》



《絵日記受賞メンバーのワークショップ》

全国フェスティバルのプログラムとして、絵日記の受賞メンバーは、日本環境協会「こども環境相談室」相談員・岡本さんのファシリテートのもと、それぞれの絵日記を発表し、講評を受けたり質疑応答をしたりしてそれぞれ活動を振り返りました。また、特別受賞プログラムでは「水のふしぎ」を学びました。



■幼児部門受賞クラブに対して「ミールケア・エコまる賞」の授与

壁新聞の幼児部門で「ミールケア・エコまる賞」を受賞したクラブに対して、こどもエコクラブキャラクター「エコまる」がクラブを訪問し、表彰式と『エコまるエコ教室』を行いました。エコ教室の実施にあたっては、クラブの要望を事前にヒアリングして、幼児でも楽しみながらエコについて考えることができるエコクイズやうちわを使ったエコ宣言プログラム、リレーゲームなどを企画しました。また、県・市の地域事務局の方にも広報等のサポートや表彰式での挨拶、当日の参観などをいただきました。

□千葉県佐倉市「さくらほいくえん つきぐみ スマイルクラブ」

○実施日：平成 28 年 3 月 1 日（火） 10:00～12:00

○場所：佐倉保育園（千葉県佐倉市）

○参加者数：子ども 90 名、大人（保護者・関係者）20 名 合計 110 名



□栃木県宇都宮市「東峰エコキッズ」

○実施日：平成 28 年 4 月 22 日（金） 10:00～11:30

○場所：東峰保育園（栃木県宇都宮市）

○参加者数：子ども 43 名、大人（保護者・関係者）15 名 合計 58 名



(3) 地域交流会の企画、実施、サポート

地域で環境活動を行っているこどもエコクラブの子どもたちが集い、各々の活動紹介等を通じて相互の交流を深めるとともに、地域の環境活動の活性化を目的とした交流会を各地で開催しました。開催にあたっては、地方自治体、企業・団体等と連携協力して行いました。

また、自治体主催の地域交流会に参加するなど、自治体の要望に合わせてサポートしました。

■全国事務局主催の地域交流会

[こどもエコクラブ東京交流会]

○開催日：平成 27 年 8 月 13 日(水) 10:00～12:30

○場 所：中央区立環境情報センター(東京都中央区)

○主 催：こどもエコクラブ全国事務局(公益財団法人日本環境協会)

○後 援：環境省、東京都、中央区

○協 賛：井筒まい泉株式会社、サントリーホールディングス株式会社

○参加者：関東地方(埼玉県、群馬県、栃木県、東京都、千葉県)のこどもエコクラブ 8 クラブ
メンバー30 名、サポーター等大人 30 名 合計 60 名

○プログラム：クラブの活動紹介、カードゲーム(おいしいオリジナルカレーをつくろう!)、
クラブの交流、情報交流ワークショップ(サポーター向け)



■自治体・団体主催の地域交流会等

[環境地域担い手連携推進セミナー：子どもを核とした地域づくり～こどもエコクラブの活用]

○開催日：平成 27 年 10 月 29 日(木)14:00～16:30

○場 所：山形県環境科学研究センター(山形県村山市)

○主 催：山形県

○協 力：こどもエコクラブ全国事務局(公益財団法人日本環境協会)

○参加者：山形県内の学校・NPO・自治体関係者、こどもエコクラブコーディネーター 合計 60 名





千葉県交流会
(千葉県)



岡山県活動発表会
(岡山県)



北九州交流会(福岡県北九州市)



群馬県こどもエコクラブ交流会
(群馬県)



オイスカ「子供の森」子ども親善大使×
こどもエコクラブ交流会 in 谷津干潟
(千葉県)



草津市こども環境会議
(滋賀県草津市)

[平成 27 年度環境リーダースキルアップ講座]

○開催日:平成 27 年 8 月 7 日(金)9:30～17:00

○場 所:新潟県自治会館(新潟県新潟市)

○主 催:環境リーダー育成協議会

○参加者:新潟県(新潟市、村上市、見附市、上越市、柏崎市、燕市) 16 名

この他にも、地域事務局を担う地方自治体の独自主催による「こどもエコクラブ交流会」等が全国各地で実施されています(P.32 参照)。

◎被災地に緑と心の復興を！ Project-D

平成 23 年の東日本大震災で大きな被害を受けた森林や樹木の再生をテーマに、こどもエコクラブを始めとする全国の子どもたちが、①被災地復興のため心をつなぐ協力する ②遺伝子の攪乱を防ぎ、生物多様性に配慮した森林再生を行う ③子どもたちの環境、地域づくりへの理解を深めるとともに、事業に参加するこどもエコクラブのサポーターや企業担当者等の環境人材の育成を図ることを目的とした事業を、平成 23 年度から実施しています。

平成 27 年度は、新たに確保した植樹地(福島県郡山市)に、全国で育てた苗木を被災地域の住民や子どもたちとともに植えました。また、宮城県や福島県で森づくり活動を行っている団体に、プロジェクトで育てた苗木を提供しました。

さらに、「みどりの感謝祭」、「企業・NPO 等参加による「海岸林再生活動」説明会」等の環境イベントにおいて本事業の広報活動を行うとともに、専用のウェブサイトを通じて事業概要や参加者の活動状況を発信しました。



広報用展示パネル



植樹イベントの様子



6. 育った苗を被災地に送ります。



5. 育つ様子を観察し、インターネットで共有します。

4. 全国で苗木を育てます。



7. 育った苗を被災地で植樹します。

1. 被災地で種子を採取します。

2. 採取した種子を全国事務局に送ります。被災地でも苗を育てます。

3. 種子と栽培マニュアルを全国に配布します。



◎いきものみっけファーム

平成 23 年度から、こどもエコクラブを核として、地方自治体、企業、生産者、大学、NPO 等が協働することにより、子どもたちが身近な生物とのふれあい等の自然体験や農業体験、農作物の販売体験等の社会体験を通じ、環境や食と農、グリーン購入などを学ぶいきものみっけファーム事業を推進しています。各地に産官学民が協働する「いきものみっけファーム推進協議会」を設置し、環境配慮型の農業の普及、環境配慮型商品の流通促進、地域の環境活動リーダーの育成など地域の活性化を図っています。

平成 27 年度は、長野県松本市、秋田県大仙市、滋賀県、長野県長野市の協議会において作物の植え付け、収穫、生物観察、食育、流通など様々な活動を繰り広げました。4月には、山梨県中央市に5カ所目となる推進協議会が発足し、田植えと収穫の行事には東京都調布市と地元の子どもたちが参加しました。その他、千葉県流山市などで新たな推進協議会の設立の準備を進めています。

今後は協議会の設立と同時に、それぞれの協議会の経営の自立を促すとともに、全国事務局の活動資金確保の方策が課題です。

■田植え・植え付け



田植イベント



作付



稲刈り

■生きもの調査



川の生き物調査



田んぼでの生き物観察



■食育



プチ食育体験



味噌作り



募集チラシ

●地域事務局の取組事例

地域事務局においても、さまざまな形で子どもエコクラブを推進しています。

(1) 子どもエコクラブ関連記事(紹介・募集)の掲載

◆広報誌・オリジナルチラシ・ウェブサイト等



埼玉県戸田市「広報戸田市」



千葉県八千代市「広報やちよ」



千葉県船橋市「エコふなばし」



静岡県富士宮市
「広報ふじのみや」



兵庫県伊丹市「広報伊丹」



北海道 ウェブサイト



埼玉県川越市 ウェブサイト



大分県大分市 ウェブサイト

◆地域クラブのメンバー募集と運営



千葉県市川市 募集チラシ



神奈川県綾瀬市 募集チラシ



広島県広島市 募集ウェブページ



東京都中央区 中央エコキッズ募集チラシ

◆環境副読本・地域の環境団体発行物での紹介



福島県郡山市
「郡山市のかんきょう」



三重県「環境学習みえ」



長野県松本市 子育て支援冊子「イクジイ」

◆自治体による子どもエコクラブ関連発行物



群馬県 サポーターズ・ニュース



千葉県 子どもエコネットちば



福岡県 子どもエコクラブ通信

◆その他実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	—	埼玉県	朝霞市	長野県	塩尻市	和歌山県	—
北海道	札幌市	埼玉県	久喜市	長野県	佐久市	鳥取県	—
北海道	函館市	埼玉県	白岡市	長野県	千曲市	鳥取県	米子市
北海道	室蘭市	埼玉県	寄居町	長野県	軽井沢町	島根県	—
北海道	釧路市	千葉県	—	岐阜県	岐阜市	島根県	松江市
北海道	網走市	千葉県	市川市	岐阜県	高山市	島根県	浜田市
北海道	羽幌町	千葉県	船橋市	岐阜県	多治見市	岡山県	—
青森県	—	千葉県	松戸市	岐阜県	可児市	岡山県	倉敷市
青森県	青森市	千葉県	野田市	静岡県	—	岡山県	浅口市
青森県	八戸市	千葉県	我孫子市	静岡県	浜松市	広島県	—
岩手県	—	千葉県	佐倉市	静岡県	沼津市	広島県	広島市
岩手県	盛岡市	千葉県	習志野市	静岡県	富士宮市	広島県	福山市
岩手県	遠野市	千葉県	八千代市	静岡県	富士市	山口県	—
岩手県	雫石町	千葉県	香取市	静岡県	藤枝市	山口県	宇部市
宮城県	—	東京都	新宿区	愛知県	—	山口県	山口市
宮城県	石巻市	東京都	北区	愛知県	岡崎市	山口県	岩国市
宮城県	気仙沼市	東京都	八王子市	愛知県	一宮市	香川県	—
宮城県	多賀城市	東京都	立川市	愛知県	半田市	愛媛県	—
宮城県	登米市	東京都	武蔵野市	愛知県	春日井市	愛媛県	今治市
宮城県	利府町	東京都	青梅市	愛知県	豊田市	愛媛県	西条市
秋田県	—	東京都	調布市	愛知県	犬山市	愛媛県	新居浜市
秋田県	秋田市	神奈川県	—	愛知県	江南市	高知県	—
秋田県	横手市	神奈川県	横浜市	愛知県	稲沢市	福岡県	—
秋田県	由利本荘市	神奈川県	相模原市	三重県	—	福岡県	北九州市
山形県	—	神奈川県	平塚市	三重県	四日市市	福岡県	筑紫野市
福島県	—	神奈川県	藤沢市	三重県	松阪市	福岡県	春日市
福島県	福島市	神奈川県	茅ヶ崎市	三重県	鳥羽市	福岡県	太宰府市
福島県	会津若松市	神奈川県	大和市	三重県	志摩市	福岡県	朝倉市
福島県	郡山市	神奈川県	南足柄市	三重県	大紀町	福岡県	大野城市
茨城県	—	神奈川県	綾瀬市	滋賀県	—	熊本県	—
茨城県	日立市	新潟県	—	滋賀県	草津市	熊本県	人吉市
茨城県	北茨城市	新潟県	長岡市	京都府	木津川市	大分県	—
栃木県	—	新潟県	三条市	大阪府	—	大分県	大分市
栃木県	宇都宮市	新潟県	柏崎市	大阪府	大阪市	宮崎県	—
栃木県	真岡市	富山県	—	大阪府	堺市	宮崎県	宮崎市
群馬県	—	富山県	高岡市	大阪府	茨木市	宮崎県	都城市
群馬県	前橋市	石川県	金沢市	大阪府	寝屋川市	鹿児島県	—
群馬県	高崎市	福井県	—	大阪府	交野市	鹿児島県	鹿屋市
群馬県	伊勢崎市	福井県	福井市	大阪府	阪南市	鹿児島県	指宿市
埼玉県	—	山梨県	—	兵庫県	神戸市	鹿児島県	霧島市
埼玉県	さいたま市	長野県	—	兵庫県	姫路市	沖縄県	—
埼玉県	川越市	長野県	長野市	兵庫県	伊丹市	沖縄県	那覇市
埼玉県	川口市	長野県	松本市	兵庫県	篠山市	沖縄県	浦添市
埼玉県	戸田市	長野県	大町市	奈良県	奈良市	沖縄県	南風原町

(2) こどもエコクラブ交流会等 環境イベントの開催



北海道札幌市
こどもエコクラブ交流会



岩手県
こどもエコクラブ交流会



山形県
環境地域づくり担い手連携推進セミナー



岡山県
第 18 回こどもエコクラブ in おかやま活動発表会



山口県宇部市
平成 27 年度こどもエコクラブ体験講座



福岡県
こどもエコクラブ秋の自然観察会

◆その他実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	札幌市	千葉県	船橋市	愛知県	半田市	山口県	宇部市
北海道	函館市	東京都	中央区	愛知県	豊田市	徳島県	—
北海道	釧路市	東京都	三鷹市	三重県	—	愛媛県	—
岩手県	—	神奈川県	相模原市	三重県	四日市市	高知県	—
岩手県	奥州市	神奈川県	茅ヶ崎市	滋賀県	—	福岡県	—
山形県	—	福井県	鯖江市	滋賀県	草津市	福岡県	北九州市
福島県	郡山市	長野県	—	兵庫県	神戸市	長崎県	佐世保市
茨城県	水戸市	長野県	長野市	兵庫県	姫路市	熊本県	—
栃木県	—	長野県	茅野市	鳥取県	—	宮崎県	宮崎市
群馬県	—	新潟県	—	鳥取県	米子市	鹿児島県	—
埼玉県	—	福井県	鯖江市	岡山県	—	鹿児島県	鹿児島市
埼玉県	越谷市	岐阜県	岐阜市	岡山県	岡山市	沖縄県	那覇市
埼玉県	三芳町	静岡県	—	広島県	—	沖縄県	浦添市
千葉県	—	静岡県	富士市	広島県	広島市		
千葉県	市川市	静岡県	菊川市	広島県	呉市		

(3) クラブへのツール等の配布



秋田県 バンダナ



千葉県市川市 登録証



東京都中央区 会員証・バッジ

◆その他実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	函館市	岐阜県	各務原市	兵庫県	姫路市	熊本県	—
青森県	—	山梨県	—	岡山県	—	大分県	—
秋田県	—	静岡県	—	鳥取県	米子市	宮崎県	宮崎市
山形県	—	静岡県	富士市	徳島県	—	鹿児島県	—
東京都	中央区	兵庫県	—	福岡県	北九州市		
千葉県	市川市	兵庫県	芦屋市	佐賀県	—		

(4) こどもエコクラブ活動報告書等の発行・配布



北海道函館市



秋田県



栃木県



茨城県

◆その他実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	—	茨城県	—	埼玉県	川越市	兵庫県	姫路市
北海道	函館市	栃木県	—	埼玉県	越谷市	福岡県	北九州市
青森県	八戸市			長野県	—	長崎県	—
秋田県	—	群馬県	—	長野県	茅野市	沖縄県	—
福島県	—	埼玉県	—	三重県	—		

他にも、クラブへの活動助成や活動時の専門家の派遣、地域独自の子どもたちの顕彰、ホームページ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)等による広報を積極的に行っている地域もあります。

協賛・協力いただいた企業・団体

本事業の実施・運営に関して、様々な企業・団体の皆さまからの支援・連携を募り、「パートナー」「寄附」等により実施・運営を行っております。

■ パートナー（パートナー会員及びイベント協賛企業・団体）（51 社）

アマノ	全労済	バンダイナムコホールディングス
アライアンス	総合ハウジングサービス	富国運輸
イトーキ	高杉製薬	ブリヂストン
エコスグループ	タカラトミー	文化シヤッター
エコ・ファースト推進協議会	チェンジフィールド	ミールケア
SGホールディングスグループ （佐川急便）	鉄建建設	三井化学
エフピコ	東京交通会館	三井住友海上火災保険
王子ホールディングス	東京国際フォーラム	三井住友銀行
岡山東法人会	東京建物	三井不動産
共立駐車場工事	東京都民銀行	三菱地所
キリン	東芝	三菱電機
コカ・コーラウエスト	東洋ライス	山田養蜂場
島村楽器	トヨタ自動車	ライオン
清水建設	ニコン	リッキーシステムソリューション
住商フーズ	西日本ビル代行	龍角散
世界貿易センタービルディング	日本容器包装リサイクル協会	ロックペイント
積水化学工業	長谷エコーポレーション	

■ 寄附

【企業・団体】

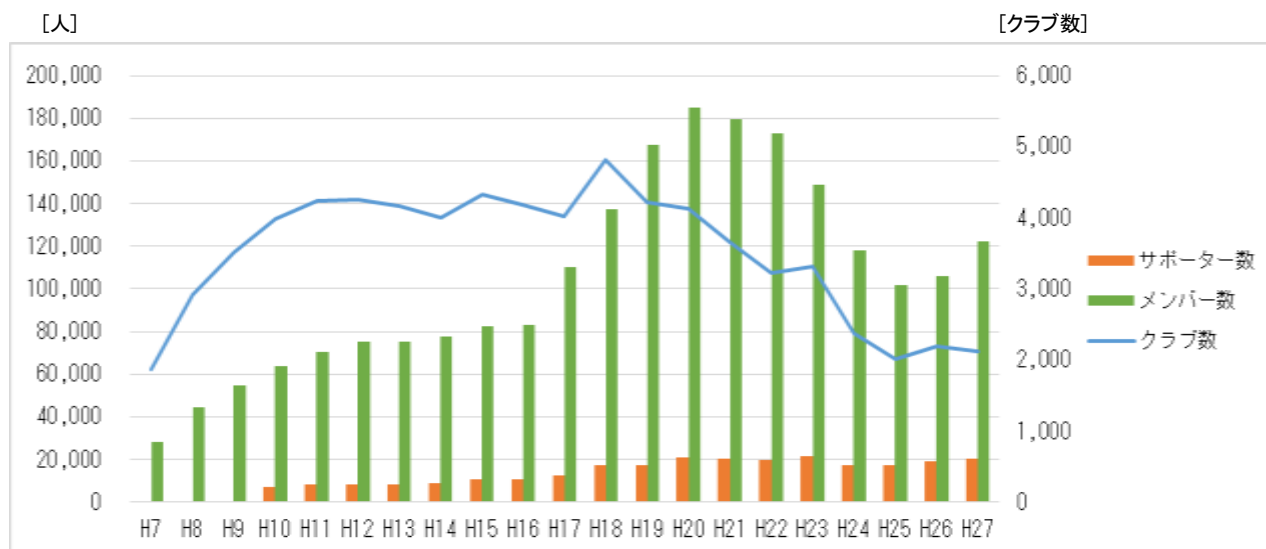
キッズステーション	プロントコーポレーション	駒鳥幼稚園 他 1 団体
K・T・C	税理士法人東京会計コンサルティング	こどもエコクラブ（12 クラブ）
T ポイントジャパン		

【個人】

石橋 正文様	大塚 栄次様	
大野 里子様	可児 和子様	他 25 名

登録データ

登録推移

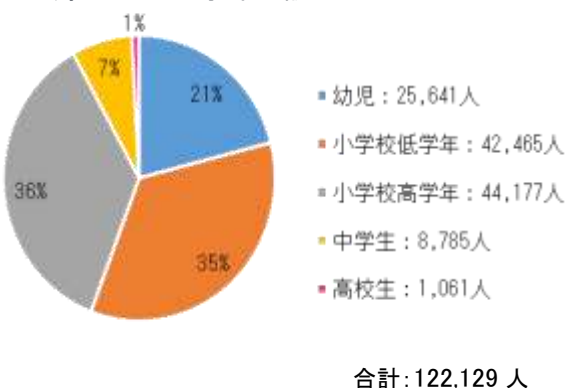


平成 27 年度都道府県別登録データ

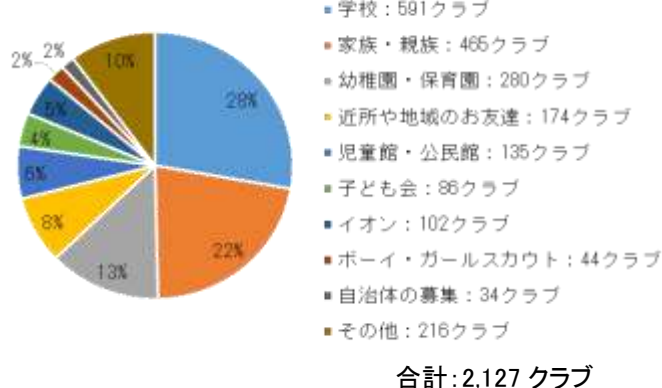
県名	クラブ数	メンバー数	サポーター数
北海道	28	652	156
青森県	30	1,393	292
岩手県	28	765	224
宮城県	14	1,555	140
秋田県	32	3,782	445
山形県	2	27	7
福島県	8	177	34
茨城県	62	4,860	581
栃木県	57	5,767	1,020
群馬県	50	1,883	268
埼玉県	141	13,716	3,179
千葉県	84	8,903	910
東京都	82	8,194	617
神奈川県	52	809	370
新潟県	37	1,627	205
富山県	33	978	231
石川県	10	358	131
福井県	24	999	99
山梨県	3	110	17
長野県	35	1,675	279
岐阜県	103	3,958	503
静岡県	93	3,640	605
愛知県	127	8,675	1,742
三重県	62	13,160	392

県名	クラブ数	メンバー数	サポーター数
滋賀県	128	5,738	497
京都府	8	278	41
大阪府	44	914	258
兵庫県	219	3,137	1,177
奈良県	19	315	55
和歌山県	7	139	68
鳥取県	83	7,121	1,998
島根県	25	1,004	246
岡山県	33	1,568	342
広島県	47	2,249	543
山口県	23	384	109
徳島県	10	587	93
香川県	2	46	13
愛媛県	10	146	51
高知県	22	321	106
福岡県	74	2,509	630
佐賀県	33	1,895	616
長崎県	16	638	84
熊本県	23	1,009	114
大分県	38	1,526	271
宮崎県	13	599	99
鹿児島県	32	1,771	177
沖縄県	21	572	125
合計	2,127	122,129	20,160

登録メンバー 学年内訳



登録クラブ形態



■平成 27 年度 地域事務局登録一覧（47 都道府県 440 市区町村）

北海道	札幌市	函館市	旭川市	室蘭市	釧路市	北見市	網走市
	伊達市	石狩市	羽幌町				
青森県	青森市	弘前市	八戸市	五所川原市	十和田市	平内町	外ヶ浜町
岩手県	盛岡市	宮古市	北上市	遠野市	釜石市	奥州市	雫石町
	岩泉町						
宮城県	仙台市	石巻市	気仙沼市	多賀城市	利府町	女川町	
秋田県	秋田市	横手市	大館市	由利本荘市	大仙市	にかほ市	
山形県	酒田市	新庄市					
福島県	福島市	会津若松市	郡山市	いわき市	喜多方市	相馬市	二本松市
	伊達市	会津美里町					
茨城県	水戸市	日立市	土浦市	古河市	龍ヶ崎市	笠間市	取手市
	つくば市	ひたちなか市	守谷市	坂東市	神栖市	茨城町	東海村
	大子町						
栃木県	宇都宮市	足利市	栃木市	佐野市	鹿沼市	日光市	小山市
	真岡市	大田原市	矢板市	那須塩原市	さくら市	那須烏山市	下野市
	上三川町	益子町	茂木町	市貝町	芳賀町		
群馬県	前橋市	高崎市	桐生市	伊勢崎市	太田市	沼田市	渋川市
	富岡市	安中市	みどり市	榛東村	下仁田町	片品村	川場村
	昭和村	みなかみ町	大泉町				
埼玉県	さいたま市	川越市	熊谷市	川口市	秩父市	所沢市	飯能市
	加須市	春日部市	狭山市	上尾市	草加市	越谷市	戸田市
	入間市	朝霞市	新座市	久喜市	三郷市	坂戸市	幸手市
	鶴ヶ島市	吉川市	ふじみ野市	三芳町	小川町	寄居町	宮代町
千葉県	千葉市	市川市	船橋市	木更津市	松戸市	野田市	茂原市
	成田市	佐倉市	習志野市	柏市	市原市	八千代市	我孫子市
	浦安市	印西市					
東京都	中央区	新宿区	江東区	品川区	世田谷区	中野区	杉並区
	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区
	江戸川区	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市
	調布市	町田市	小平市	東大和市	武蔵村山市	稲城市	
神奈川県	横浜市	川崎市	相模原市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市
	小田原市	茅ヶ崎市	厚木市	大和市	綾瀬市		
新潟県	新潟市	長岡市	三条市	柏崎市	十日町市	糸魚川市	妙高市
	上越市	佐渡市	南魚沼市	粟島浦村			
富山県	高岡市	魚津市	砺波市				

石川県	金沢市	羽咋市	白山市	津幡町
-----	-----	-----	-----	-----

福井県	福井市	鯖江市	越前市	坂井市	永平寺町	若狭町
-----	-----	-----	-----	-----	------	-----

山梨県	甲府市
-----	-----

長野県	長野市	松本市	上田市	岡谷市	飯田市	小諸市	伊那市
	茅野市	佐久市	千曲市	坂城町			

岐阜県	岐阜市	大垣市	多治見市	関市	恵那市	美濃加茂市	各務原市
	可児市	笠松町					

静岡県	静岡市	浜松市	沼津市	熱海市	三島市	富士宮市	島田市
	富士市	磐田市	焼津市	藤枝市	御殿場市	袋井市	下田市
	裾野市	湖西市	菊川市	牧之原市	川根本町		

愛知県	名古屋市	豊橋市	岡崎市	一宮市	瀬戸市	半田市	春日井市
	豊川市	津島市	豊田市	安城市	蒲郡市	江南市	小牧市
	稲沢市	日進市	東浦町	南知多町			

三重県	津市	四日市市	伊勢市	松阪市	鈴鹿市	尾鷲市	鳥羽市
	志摩市	玉城町					

滋賀県	大津市	彦根市	長浜市	草津市	高島市	日野町	多賀町
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

京都府	京都市	宮津市	木津川市
-----	-----	-----	------

大阪府	大阪市	堺市	豊中市	泉大津市	高槻市	守口市	茨木市
	八尾市	寝屋川市	河内長野市	和泉市	箕面市	高石市	東大阪市
	交野市	阪南市					

兵庫県	神戸市	姫路市	芦屋市	伊丹市	宝塚市	篠山市	たつの市
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

奈良県	奈良市	天理市	桜井市	斑鳩町
-----	-----	-----	-----	-----

和歌山県	和歌山市	海南市	橋本市	有田市	御坊市	田辺市	新宮市
	紀の川市	岩出市	紀美野町	かつらぎ町	九度山町	高野町	湯浅町
	広川町	有田川町	美浜町	日高町	由良町	印南町	みなべ町
	日高川町	白浜町	上富田町	すさみ町	那智勝浦町	太地町	古座川町
	北山村	串本町					

鳥取県	鳥取市	米子市	倉吉市	若桜町	八頭町	三朝町	湯梨浜町
	北栄町						

島根県	松江市	浜田市	出雲市	益田市
-----	-----	-----	-----	-----

岡山県	岡山市	倉敷市	浅口市
-----	-----	-----	-----

広島県	広島市	呉市	尾道市	福山市	大竹市	江田島市
-----	-----	----	-----	-----	-----	------

山口県	下関市	宇部市	山口市	萩市	岩国市	周南市	山陽小野田市
-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	--------

徳島県	徳島市	阿南市
-----	-----	-----

香川県	高松市	東かがわ市
-----	-----	-------

愛媛県	松山市	今治市	西条市
-----	-----	-----	-----

高知県	室戸市
-----	-----

福岡県	北九州市	福岡市	大牟田市	久留米市	飯塚市	柳川市	小郡市
	筑紫野市	春日市	大野城市	太宰府市	古賀市	朝倉市	

佐賀県	佐賀市	唐津市	伊万里市	武雄市	小城市	江北町
-----	-----	-----	------	-----	-----	-----

長崎県	長崎市	佐世保市	諫早市	大村市	平戸市	南島原市
-----	-----	------	-----	-----	-----	------

熊本県	熊本市	八代市	人吉市	荒尾市	水俣市	宇土市	上天草市
	益城町	山都町	芦北町	あさぎり町			

大分県	大分市	別府市	日田市	佐伯市	杵築市	宇佐市
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

宮崎県	宮崎市	都城市	延岡市	五ヶ瀬町
-----	-----	-----	-----	------

鹿児島県	鹿児島市	鹿屋市	指宿市	日置市	霧島市	奄美市	姶良市
	大崎町	瀬戸内町					

沖縄県	那覇市	浦添市	沖縄市	宮古島市	金武町	与那原町	南風原町
	八重瀬町	竹富町					

●壁新聞・絵日記 受賞作品

■壁新聞部門

こどもエコクラブ大賞



タイトル:「くろぶ〜の植物探検」

イオン鹿児島店チアーズクラブ(鹿児島県鹿児島市)

環境大臣賞



タイトル:「ぼくたちとだんぶり池の仲間たち」

HEP21エコクラブ(青森県弘前市)

文部科学大臣賞



タイトル:「西表山猫新聞」

西表ヤマネコクラブ(沖縄県竹富町)

日本環境協会賞



タイトル:「ザリガニ獲ったどお〜食べたどお〜
〜アメリカザリガニ捕獲大作戦に参加したよ〜」
エコまめクラブ(福岡県筑紫野市)

三井住友銀行賞



タイトル:「二中から未来へ」
水俣市立水俣第二中学校環境 ISO委員会
(熊本県水俣市)

朝日新聞社賞



タイトル:「「輪」エコでつながる希望の環」
真岡児童館やさしクラブ(栃木県真岡市)

早稲田大学賞



タイトル:「エコ通信 釧路湿原から2015」
こどもエコクラブくしろ(北海道釧路市)

エコマーク賞



タイトル:「みどレンジャー、自然を知る!!エコな知恵を学ぶ!!
自然をまもる!!みんなに伝える!!」
香美市こどもエコクラブ みどレンジャー(高知県香美市)

幼児部門「ミールケア・エコまる」賞



タイトル:「おいしいとちおとめができたよ」
東峰エコキッズ(栃木県宇都宮市)



タイトル:「さくらほいくえんつきぐみスマイル新聞」
さくらほいくえん つきぐみ スマイルクラブ(千葉県佐倉市)

◆幼児部門について

保育園や幼稚園のクラブなど、メンバー全員が幼児のクラブの壁新聞は、別途幼児部門として審査を行い、上位2クラブに「ミールケア・エコまる賞」を授与しました。受賞した2クラブの活動場所にこどもエコクラブイメージキャラクター「エコまる」が向いて、子どもたちと一緒に楽しい体験プログラムを行いました。

■絵日記部門 優秀賞



タイトル:「ザリガニのあかちゃん」
東峰エコキッズ
羽石 春花さん(栃木県宇都宮市)



タイトル:「下水もきれい、ごてんば」
YKM
高村 謙司郎さん(静岡県御殿場市)



タイトル:「育てて食べて学んだ一年(農業体験)」YKM
高村 百合子さん(静岡県御殿場市)



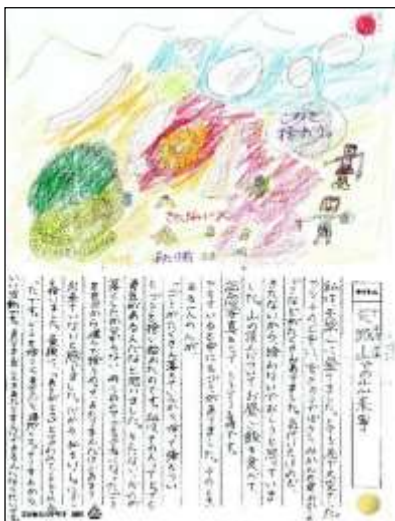
タイトル:「池の生き物をさがしつくす」
もりの学舎キッズクラブ(2015年度)
笹本 千騎さん(愛知県長久手市)



タイトル:「光るホタルたち」
岡山ハッケンジャー
佐桑 幹太さん(岡山県岡山市)



タイトル:「自然にふれあえる岸本ガーデンプレイス」
YONAGOジャングルエコ探検
三國 蘭花さん(鳥取県米子市)



タイトル:「矢城山での出来事」
水俣第一小学校こどもエコクラブ
武藤 あみさん(熊本県水俣市)

地球のワクワク！ 発見しよう

こどもエコクラブ

私が主役！ なかまと一緒に未来をつくる

こどもエコクラブは、子どもたちが地域で行う継続的な環境活動・学習のクラブです。仲間と一緒に、身近な場所で活動を積み重ねながら、自主的に人と環境とのかかわりを学びます。

■子どもたちの「ワクワク！」を応援します

子どもたちが、自然への興味関心をきっかけに、
自然を守ることが地球にとって大切なだけでなく、
人間の生活にとっても大切であることを知る環境活動・学習を支援します。
身の回りの自然からさまざまな発見をし、他の生物同様、
生態系の一部である人間の生活に応用することができる。
そんな能力を身につけながら育ちます。

■子どもたちの「生きる力」を育みます

子どもたちが、エコ活動の意味を本質的に理解できる機会をつくると共に、
なかまと一緒に活動することを支援します。
身の回りの出来事や定見から、
現在の社会とのギャップを自ら見つけ出すことで、
未来の理想的な社会と将来の自分を重ね合わせ、
社会的な課題を解決できる大人になる。
そんな大きな目標を心に宿して育ちます。

■子どもたちの「地域を愛する心」を培います

子どもたちの、身近な地域の身近な自然を大切に思う、
思いやりの心を育むことを支援します。
身の回りの自然からの発見を重ねることで、
感受性豊かな子どもたちは、自分のまちのすばらしさを感じ、探求し、愛し、
主体的に守ろうとする。
そんなまちの博士へと育ちます。



公益財団法人日本環境協会

こどもエコクラブ全国事務局

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 1-4-16
馬喰町第一ビル 9 階

TEL 03-5643-6251 E-mail j-ecoclub@eic.or.jp